

技術情報

J A全農やまぐち
TAC 営農推進課 (083-988-0681)
平成 27 年 7 月 28 日 発行
第 204 号

いもち病に注意報発令

7月27日付で、いもち病（葉いもち、穂いもち）に注意報が発令されました。
つきましては、防除に万全が期されますよう、下記及び「発生予察注意報第2号」（写）を参考に、ご指導をお願いします。

記

1 今後の予想

- (1) 対象地域 : 県内全域
- (2) 発生時期 : 7月下旬～8月下旬
- (3) 発生量 : 多

2 防除対策

(1) 防除時期

- ・ 粉剤及び液剤 : 穂ばらみ後期と穂ぞろい期の2回である
- ・ 粒剤 : 出穂前に施用する

※ ただし、葉いもちが発生している場合は直ちに防除する。また、穂いもちの防除予定日まで7日以上ある場合は（止葉抽出前）は、葉いもちの防除を行い、その後、穂いもちの防除を実施する。なお、治療効果のある薬剤はブラシン剤、ノンブラス剤、ダブルカット剤、トップジン剤などである。

(2) 防除薬剤

表（平成27年山口県農作物病虫害・雑草防除指導基準）を参照

3 留意事項等

- (1) 病虫害防除所の7月下旬前半の調査では、葉いもちの発生が平年及び昨年より多い発生となっています。特に穂いもちの感染源となる上位葉での発生には感染力の高い進行型病斑が見られています。
- (2) いもち病の感染に好適な気象状況が7月21日～23日にかけて県内全域に発生し、今後も発病の進展や新たなほ場での発生が予想されます。
- (3) 出穂後に天候不良が続く場合は、穂揃期の防除後7～10日目に再度防除してください。

いもち病の防除剤

(平成27年農作物病害虫・雑草防除指導基準)

殺菌剤

系統	殺菌剤コード	殺虫剤コード	商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用方法	成分含む 使用回数	備考
----	--------	--------	-----	------------------	-----------------	------	------	--------------	----

【粉剤】

一、メラン 生合成阻 害	U14 16.1		ブラシン粉剤DL (普)(A,A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	フェリムゾン2回以内、フサライド3回以内	治療的、予防的効果を持つが発病初期の早期散布を主体とする
一、	6 M7		フジワンベフラン粉剤DL (普)(B,A)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	イソプロチオラン3回以内(移植前は1回以内、本田では2回以内)、イミノクタン3回以内	
メラン生 合成阻 害	16.1 U14		ノンプラス粉剤DL (普)(A,A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)、フェリムゾンは2回以内	

【液剤】

ペンゾイ ミダゾール	1		トップジンMゾル(普) (A)	1000倍、60~150リットル/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	チオファネートメチル 3回以内(但し、種子への処理は1回以内)	飼料用米(粳)に出穂以降も使用可
一、	6		フジワン乳剤(普)(B)	1000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	3回以内(但し、移植前は1回以内、本田では2回以内)	飼料用稲に使用可 飼料用米(粳)に出穂以降も使用可
メラン生 合成阻 害	16.1		ビームゾル(劇)(A) ビームエイトゾル (普)(A)	1000倍 1000倍、60~150リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)	青なし、野菜類の幼苗にかからないように注意する
メラン生 合成阻 害、抗生 物質	16.1 26		ビームバリダゾル (劇)(A,A)	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	散布	トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)、バリダマイシン6回以内(但し、育苗箱灌注は1回以内、本田ではトリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)、フェリムゾン2回以内	
メラン生 合成阻 害	16.1 U14		ノンプラスフロアブル (普)(A,A)	1000倍、60~150リットル/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	フサライド3回以内、フルタラニル3回以内(但し、小包装投入は1回以内)	
メラン生 合成阻 害、酸アミ ド	16.1 7		モンカットラブサイド20 フロアブル(普)(A,B)	1000~1500倍、60~150リットル/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	フェリムゾン2回以内、フサライド3回以内	
一、メラン 生合成阻 害	U14 16.1		ブラシンフロアブル (普)(A,A)	1000倍、60~150リットル/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	フェリムゾン2回以内、フサライド3回以内	
抗生物質、一、メ ラン生合 成阻害	26 U14 16.1		ブラシンバリダフロアブル (普)(A,A,A)	1000倍、60~150リットル/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	バリダマイシン6回以内(但し、育苗箱灌注は1回以内、本田では5回以内)、フェリムゾン2回以内、フサライド3回以内	

【粒剤】

メラン生 合成阻 害	16.1		コラトップ粒剤5(普)(A)	3~4kg/10a	・葉いもちに対しては初発10日前~初発時 ・穂いもちに対しては出穂30日前~5日前まで	2回以内	散布	ピロキロン3回以内(但し、育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)	飼料用稲に使用可 火山灰土壌では効果が不安定である
			コラトップ1キロ粒剤12 (普)(A)	1~1.5kg/10a	葉いもちに対しては初発10日前~初発時、穂いもちに対しては出穂30日前~5日前まで				飼料用稲に使用可 火山灰土壌では効果が不安定である
			コラトップジャンボP (普)(A)	小包装(パック)10 ~13個(500~650g)/10a	葉いもちに対しては初発20日前~初発時、穂いもちに対しては出穂30日前~5日前まで				火山灰土壌では効果が不安定である
メラン生 合成阻 害、酸アミ ド	16.1 7		コラトップリンパー粒剤 (普)(A,B)	3~4kg/10a	出穂30日前~5日前まで	2回以内	散布	ピロキロン3回以内(但し、育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)、フラメトビル2回以内(但し、育苗箱散布は1	
一、	6		フジワン粒剤(普)(B)	3~5kg/10a	葉いもちに対しては初発7~10日前、穂いもちに対しては出穂10~30日前(但し、収穫30日前まで)	2回以内	湛水散布	イソプロチオラン3回以内(但し、移植前は1回以内、本田では2回以内)	飼料用稲に使用可
			フジワンパック(普)(B)	小包装(パック)10 ~15個(750~1125g)/10a	葉いもちに対しては初発7~10日前、穂いもちに対しては出穂10~30日前(但し、収穫14日前まで)		水田に小包装(パック)のまま投げ入れる		飼料用稲に使用可
一、酸アミ ド	6 7		フジワンモンカット粒剤 (普)(B,B)	3~4kg/10a	出穂30~10日前(但し、収穫30日前まで)	2回以内	湛水散布	イソプロチオラン3回以内(移植前は1回以内、本田では2回以内)、フルタラニル3回以内(但し、小包装投入は1回	飼料用稲に使用可
酸アミド	P		ルーチン粒剤(普)(A)	1kg/10a	収穫30日前まで	2回以内	湛水散布	イソチアニル3回以内(但し、移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	飼料用稲に使用可 飼料用米(粳)に出穂以降も使用可
一、	P		オリゼメート粒剤(普)(B)	3~4kg/10a	葉いもちには初発の10日前~初発時穂いもちには出穂3~4週間前(但し、収穫14日前まで)	2回以内	散布	プロベナゾール2回以内(但し、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内)	飼料用稲に使用可 砂質土など漏水の多い水田や養魚田では使用しない
		3kg/10a		移植時	1回	側条施用			

殺虫殺菌剤

系統	殺菌剤 コード	殺虫剤 コード	商品名	希釈倍数・使用 量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用 回数	使用 方法	成分含む 使用回数	備考
----	------------	------------	-----	----------------------	-----------------	----------	----------	--------------	----

【粉剤1】【いもち病+ウンカ類等】

フェニル ピラゾール ー	不明	2B	トライク粉剤DL (普)(A,-)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	エチプロール2回以内(但し、移植時までの処理は1回以内)、テブフロキン2回以内	-
ピレスロイ ド、メラニ ン生合成 阻害	U14 16.1	3A	ブラシントレボン粉剤DL (普)(B,A,A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	エトフェンロックス3回以内、フェリムゾン2回以内、フサライド3回以内	-
ピレスロイ ド、メラニ ン生合成 阻害	16.1 U14	3A	ノンプラストレボン粉剤 DL(普)(B,A,A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	エトフェンロックス3回以内、トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)、フェリムゾン2回以内	-
ピレスロイ ド、ー	不明	3A	トライトレボン粉剤DL (普)(B,-)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	エトフェンロックス3回以内、テブフロキン2回以内	-
ネオニコ チノイド、 メラニン 生合成 阻害剤、 ー	16.1 U14	4A	ノンプラスダントツH粉 剤DL(普)(A,A,A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	クロチアニジン4回以内(但し、移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)、トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)、フェリムゾン2回以内	-
ネオニコチ ノイド、IGR、 メラニン生 合成阻害	16.1	4A 16	ビームアプロードスター クル粉剤5DL (普)(A,B,A)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)、プロフェジン4回以内(但し、小包装投入は1回以内)、トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)	-
ネオニコチ ノイド、メラ ニン生合成 阻害	16.1	4A	ビームスタークル粉剤 5DL(普)(A,A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)、トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)	-
ネオニコチ ノイド、 ー	不明	4A	トライスタークル粉剤DL (普)(A,-)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)、テブフロキン2回以内	-

【粉剤2】【いもち病+ウンカ類+チョウ目等】

ネオニコチ ノイド、メ ラニン生 合成阻 害	U14 16.1	4A	ブラシダントツH粉剤 DL(普)(A,A,A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	クロチアニジン4回以内(但し、移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)、フェリムゾン2回以内、フサラ	-
ピレスロイ ド、メラニ ン生合成 阻害	U14 16.1	3A	ブラシジョーカー粉剤 DL(普)(A,A,A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	シラフルオフェン2回以内、フェリムゾン2回以内、フサライド3回以内	-
フェニル ピラゾール、 ピレスロイ ド、メラ ニン生 合成阻 害	16.1	2B 3A	ビームキラップジョ ーカー粉剤DL (普)(A,A,A)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	エチプロール2回以内(但し、移植時までの処理は1回以内)、シラフルオフェン2回以内、トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)	-

【粉剤3】【いもち病+紋枯病+ウンカ類+チョウ目等】

ピレスロイ ド、ベン ゾイミダ ゾール	1	3A	トップジントレボン粉剤 DL(普)(B,A)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	エトフェンロックス3回以内、チオファネートメチル3回以内(但し、種子への処理は1回以内)	-
ピレスロイ ド、抗生 物質、メ ラニン生 合成阻 害、抗生 物質	24 16.1 26	3A	ダブルカットバリダトレ ボン粉剤3DL (普)(B,A,A,A)	3~4kg/10a	穂揃期まで	2回以内	散布	エトフェンロックス3回以内、カスカマイシン4回以内(但し、種子浸漬は1回以内、育苗箱への処理は1回以内、本田では2回以内)、トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)、バリダマイシン6回以内(但し、育苗箱灌注は1回以内、本田では5回以内)	-
ネオニコ チノイド、IGR、 抗生 物質、 メラニ ン生 合成 阻害、 抗生 物質	24 16.1 26	4A 16	イックツエース粉剤DL (普)(A,A,A,A,A)	3~4kg/10a	穂揃期まで	2回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)、テブフロキン2回以内、カスカマイシン4回以内(但し、種子浸漬は1回以内、育苗箱への処理は1回以内、本田では2回以内)、トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)、バリダマイシン6回以内(但し、育苗箱灌注は1回以内、本田では5回以内)	-
ネオニコ チノイド、 メラニ ン生 合成 阻害、 抗生 物質、 ー	16.1 26 U14	4A	ノンプラスバリダダ ントツH粉剤DL (普)(A,A,A,A)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	クロチアニジン4回以内(但し、移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)、トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)、バリダマイシン6回以内(但し、育苗箱灌注は1回以内、本田では5回以内)	-
系統	殺菌剤 コード	殺虫剤 コード	商品名	希釈倍数・使用 量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用 回数	使用 方法	成分含む 使用回数	備考

【粉剤3】【いもち病+紋枯病+ウンカ類+チョウ目等】

ビレスロイド,IGR,メランニン合成阻害	16.1 20	3A 18	ビームモントレランナー粉剤5DL(普)(B,B,A,B)	3~4kg/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	エトフェンブロックス3回以内,メキシフェノジド3回以内,トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)、ペンシクロテブフェノジド2回以内,プロプロフェジン4回以内(但し、小包装投入は1回以内)、フサライド3回以内、フルトラニル3回以内(但し、小包装投入は1回以内)	—
IGR,IGR,メランニン合成阻害,酸アミ	16.1 7	18 16	コルター2号F粉剤DL(普)(A,B,A,B)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	カルタップ6回以内(種もみ浸漬は1回以内、床土への混和及び育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内)、クロチアニジン4回以内(但し、移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)、バリダマイシン6回以内(但し、育苗箱灌注は1回以内、本田では5回以内)、フェリムゾン2回以内、フサライド3回以内	—
ネオニコチノイド,ネオニコチノイド,抗生物質,一,メランニン合成阻害	26 U14 16.1	14 4A	ハスラー粉剤DL(普)(Bs,A,A,A,A)	3~4kg/10a	収穫21日前まで	2回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)、トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)、フルトラニル3回以内(但し、小包装投入は1回以内)	—
ネオニコチノイド,メランニン合成阻害,酸アミ	16.1 7	4A	ビームモンカッタースタークルF粉剤5DL(普)(A,A,B)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)、トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)、フルトラニル3回以内(但し、小包装投入は1回以内)	—

【液剤】

ネオニコチノイド,メランニン合成阻害	16.1	4A	ビームエイトスタークルゾル(普)(A,A)	1000倍,60~150リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)、トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)	—
ネオニコチノイド,メランニン合成阻害	16.1	4A	ラブサイドスタークルフロアブル(普)(A,A)	500倍60~150リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)、フサライド3回以内	—
ネオニコチノイド,ペンゾイミダゾール	1	4A	トップジンスタークルフロアブル(普)(A,A)	500倍,60~200リットル/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)、チオファネートメチル3回以内(但し、種子への処理は1回以内)	墨黒穂病にも適用あり。
ビレスロイド,ペンゾイミダゾール	1	3A	トップジントレボンフロアブル(普)(B,A)	500倍,60~200リットル/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	エトフェンブロックス3回以内,チオファネートメチル3回以内(但し、種子への処理は1回以内)	墨黒穂病にも適用あり。
ビレスロイド,抗生物質,メランニン合成阻害	24 16.1	3A	ダブルカットJフロアブル(普)(A,A,A)	1000倍,60~200リットル/10a	穂揃期まで	2回以内	散布	シラフルオフェン2回以内,カスカマイシン4回以内(但し、種子浸漬は1回以内、育苗箱への処理は1回以内、本田では2回以内)、トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)	—
フェニルピラゾール,ビレスロイド,一,メランニン合成阻害	16.1	2B 3A	ビームキラップジョーカーフロアブル(普)(A,A,A)	1000倍,60~200リットル/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	エチロール2回以内(但し、移植時までの処理は1回以内)、シラフルオフェン2回以内、トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)	—
ビレスロイド,一,メランニン合成阻害	U14 16.1	3A	ブラシンジョーカーフロアブル(普)(A,A,A)	1000倍,60~150リットル/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	シラフルオフェン2回以内,フェリムゾン2回以内,フサライド3回以内	変色米(エヒコカム菌)にも適用がある。

【粒剤】

ネオニコチノイド,メランニン合成阻害	16.1	4A	コラトップダントツ1キログラム粒剤(普)(A,A)	1kg/10a	出穂5日前まで	2回以内	散布	クロチアニジン4回以内(但し、移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)、ヒロキロン3回以内(但し、育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)	飼料用稲に使用可カメムシ類の適用については、大型種カメムシ類では効果が劣る。
ネオニコチノイド,メランニン合成阻害	16.1	4A	コラトップスタークル1キログラム粒剤(普)(A,A)	1kg/10a	出穂5日前まで	2回以内	散布	ジノテフラン4回以内(但し、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)、ヒロキロン3回以内(但し、育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)	飼料用稲に使用可カメムシ類の適用については、大型種カメムシ類では効果が劣る。
フェニルピラゾール,IGR	6	2B	フジワンラップ粒剤(普)(A,B)	3~4kg/10a	葉いもちに対しては初花7~10日前、穂いもちに対しては出穂10~30日前(但し、収穫30日前まで)	2回以内	湛水散布	エチロール2回以内(但し、移植時までの処理は1回以内)、イプロロキサ3回以内(但し、移植前は1回以内、本田では2回以内)	カメムシ類の適用については、大型種カメムシ類では効果が劣る。
ネオニコチノイド,カーバメート,一	P	14 1A	バダンパッサオリゼメート粒剤(劇)(Bs,Bs,B)	3~4kg/10a	収穫30日前まで	2回以内	散布	カルタップ6回以内(但し、種もみ浸漬は1回以内、床土への混和、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内)、BPMC5回以内、プロベナゾール2回以内(但し、育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内)	白葉枯病にも適用がある。 イネミズゾウムシにも適用がある(使用量4kg/10a)。

平成 27 年度農作物病虫害発生予察注意報第 2 号

平成 27 年(2015 年) 7 月 27 日

山 口 県

病虫害名 イネいもち病(葉いもち、穂いもち)

1 発生地域 県内全域

2 発生時期 7 月下旬～8 月下旬

3 発生程度 多

4 注意報発令の根拠

- (1) 7 月 22 日～24 日の巡回調査では、葉いもちの発生ほ場率 24.4% (平年 17.6%)、発病株率 13.9% (平年 5.5%)、発病度 4.0(平年 1.4)で平年に比べ多かった(図)。
- (2) 上記の調査では、上位葉に病原菌胞子の形成量が多い進行型病斑がみられた(写真)。
- (3) 葉いもち発生予測モデル(BLASTAM)では、7 月 21 日～23 日にかけて県内全域で感染好適条件が出現しており(表)、今後も発病の進展や新たなほ場での発生が予想される。

5 防除方法

(1) 防除時期

ア 葉いもちが発生しているほ場は、直ちに防除を行う。また、穂いもちの防除予定日まで 7 日以上ある場合(止葉抽出前)は、葉いもちの防除を行い、その後、穂いもちの防除を実施する。

イ 穂いもちの防除を適期に実施する。粉剤・液剤は穂ばらみ後期及び穂揃期の 2 回行い、粒剤・パック剤は出穂前に施用する。

(2) 防除薬剤

平成 27 年山口県農作物病虫害・雑草防除指導基準による。

6 防除上注意すべき事項

- (1) 6 月中旬までに移植したほ場は、長期持続型箱施用剤の効果が低下してきているため、ほ場を丁寧に見回り、葉いもちが発生している場合は直ちに防除する。
- (2) 薬剤散布の際、降雨が続く場合は雨の合間に散布を行うことも必要となるが、散布後 3～4 時間は降雨のないことが望ましい。
- (3) 出穂後に天候不良が続く場合は、穂揃期の防除後 7 日～10 日目に再度防除する。
- (4) 粒剤・パック剤は薬剤の種類によって使用時期が異なるので注意する。
- (5) 防除を行う場合は、周辺の野菜等に農薬が飛散しないように注意する。

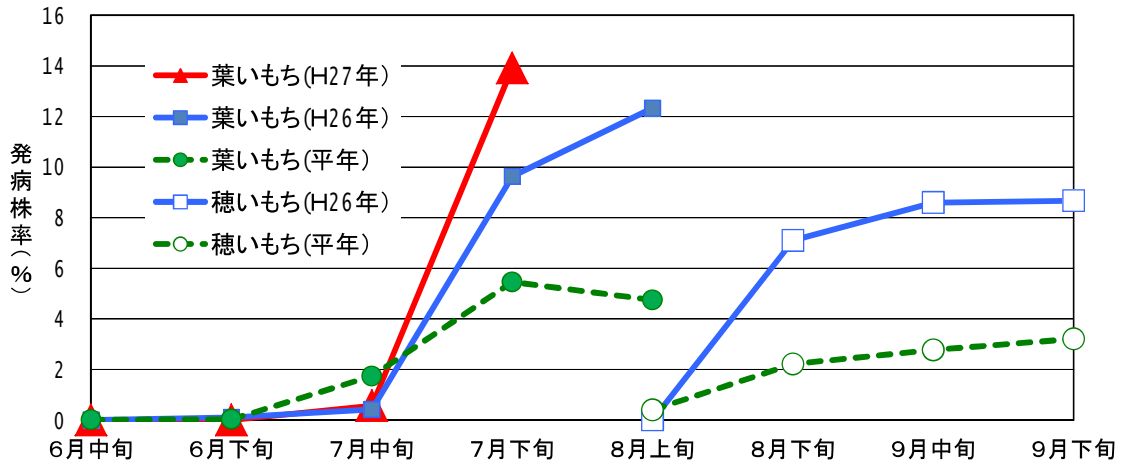


図 イネいもち病の発病株率



写真1 葉いもちの症状



写真2 進行型病斑



写真3 穂いもちの症状

表 BLASTAMによる感染好適条件の出現状況(7/1~7/26)

アメダス 地点	7 月																									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
須佐	-	-	-	-	-	-	●	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
萩	-	-	-	-	-	-	●	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-
油谷	-	-	-	-	●	-	△	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳佐	-	-	-	-	●	-	●	●	●	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	●	●	-	-	-
秋吉台	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-	-
広瀬	-	-	-	-	●	-	-	●	●	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-	●	●	●	-	-
豊田	-	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-
山口	-	-	-	-	●	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-
岩国	-	-	-	-	●	-	-	●	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-
防府	-	-	-	-	●	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-
下松	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-
玖珂	-	-	-	-	●	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-
下関	-	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-
宇部	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
柳井	-	-	-	-	●	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
安下庄	-	-	-	-	●	-	●	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-

注) ●印は、アメダスデータから算出した葉いもちの感染好適条件が出現した日を示す。△印は、感染するには一部の条件が不足した準好適条件出現日を示す。

感染好適条件出現の約1週間後に初発病斑が認められ、約2週間後に病斑が目立ってくる。ただし、防除(箱粒剤等)、イネの品種、肥培管理等の条件によって感染、発病しない場合もある。